日本言語文化コースのコンセプトおよび新任教員に期待すること

１．教育目標

日本言語文化コースでは，日本語による言語活動全般，および日本語による文学活動全般を研究対象とし，従来の研究成果や知見を学びつつも，科学的で独創的な視点に立ち，対象を追究できる人を育成することを目指しています。

当コースにおいて特に重視する教育目標は，日本文学・日本語学を中核とする日本言語文化の幅広い知識・研究方法を学ぶだけでなく，それらに基づいて，自ら研究を計画し，データの調査・収集・解析を通じて，卒業論文を作成する力を身につけることです。このことによって，古代から現代まで，さまざまな時代の日本語や，それらの日本語による言語テクストや文学テクストはいうまでもなく，日本語そのものをも，客観的な観察対象として分析する力を養い，実際的な諸問題の解決にも理知的に取り組むことのできる姿勢や能力を伸ばしたいと考えています。

また，日本社会を，列島という閉じた空間として捉えるのではなく，「東アジア地域における日本」，また「国際社会における日本」として捉えるという視点も重視し，それらの関係性の中で，日本語や日本語によるテクストについて考えるという，大きな視野の獲得も重要と考えています。

２．コースの特徴

日本言語文化コースは日本文学２名，日本語学２名の４名の教員によって構成されています（令和９年４月１日時点）。

日本言語文化コースのカリキュラムの第一の特色は，日本語学，日本文学を中核とした，日本言語文化に関する幅広い研究領域科目が用意されていることです。学生は，これらの研究領域から中心とする研究室を決め，演習科目や特論科目を通じて段階的に研究方法を学ぶと同時に，コース全体で展開されている幅広い隣接研究領域の学問を学ぶことができます。具体的には，２年次，３年次ともに「基幹演習」「発展演習」において個別具体的な問題を扱いながら実践的な能力を養い，４年次には，それまでの学びを発展させ，自ら選んだ研究テーマに取り組み，卒業論文を完成させます。これらの演習や論文作成の作業を通して，日本言語文化に関する基本知識を，隣接領域の知識とともに実際に応用できる技術として身につけます。

第二の特色は，教職課程（中高国語）に対応していることです。日本言語文化に関する幅広い専門的知識と探求力を身につけた上で，教職に就くことを目指しています。

３．新任教員に期待すること

・日本言語文化について先進的な研究を行い，発信する意欲があること。
・学生を多様な研究関心へと導き，その関心に応えられるように，自らが専門とする研究分野だけでなく日本言語文化全般への幅広い知識や関心を有すること。
・学生の教育および指導に強い意欲と情熱をもって臨むことができること。
・日本言語文化コースあるいは学部全体の教育体制に協力できること。また，学部およびコースの運営に積極的に取り組むことができること。
・国際交流および地域貢献に理解と関心があり，地域に対する文化事業を積極的に推進できること。